2012年度　藍蓼祭展示部門　優秀賞

教師の仕事

～多忙な教師～

文教大学大学院　教育学研究科　院生

2012年度文教大学藍蓼祭

展示部門優秀賞受賞

教師の仕事
～多忙な教師～

文教大学大学院院生１年

伊藤悠太

岩下紗矢香

嶋田千恵

廣川遥

深川貴史

はじめに

教師の仕事
-ご挨拶に代えて-

文教大学大学院教育学部研究科長

平沢　茂

１．本研究科学生による共同研究の試み

　文教大学大学院教育学研究科では、設置後６年目を迎えた今年度、学生個々の研究だけではなく、共通するテーマによる共同研究に取り組むこととといたしました。初めての試みでしたし、年度途中からのスタートでしたから必ずしも十分な成果を得るには至りませんでしたが、学生は私の予想を超える力を発揮してくれました。初の試み、時間の不足などの理由で、課題の多い展示ではありますが、今後の取り組みに役立たせていただくためにも、ご覧いただき、貴重なご意見を頂戴いたしたく存じます。

２．研究の内容と方法

　さて、今回の研究は、日本の教師の勤務実態をまとめてみようというものでした。日本の教師の勤務実態に関しては、下記のような課題のあることが指摘されています。

① 先進諸国の中でも、勤務時間が長いこと

② 労働基準法によって保障されるべきだとされる休憩はもとより、勤務条例等で保障されるべきとされる休息時間も満足にとれないこと

③ ①②に関連して、教師の本務とされる授業・学習指導とともに、生徒指導、部活指導、時に金銭管理など、勤務内容は多岐に及び、教師のミッションとは何かが不明確であること

④ 特別な対応の必要な子どもの増加などによって、精神的な負担が増えていること

今回の研究では、こうしたことが実際のどのような状況であるのかを探ることを目的とし、そのために、身近な教師へのヒアリング調査を実施しました。

併せて、日本の教師の給与は勤務に見合ったものなのか否か、国のデータなどから探りました。同時にＯＥＣＤによる国際調査のデータから、日本の教師の社会的状況を、探ってみました。結果は、以後のパネルに示したとおりです。

３．今回の調査から見えてきたもの。

日本の教師の勤務時間は言われるとおり長時間に及ぶものでした。また、休憩・休息は絵に描いた餅そのものでした。他の職種の公務員より優遇されていると思われていた給与も、ご覧のとおり評判とは異なるものでした。

事務仕事など「雑務」と思われる仕事の多さも目につきます。しかし、雑務について複数の教師は「雑務のように見えても、実は子どもの教育指導に関わるものであると考えることができるので、おろそかにできない」と答えています。ここからは、日本の教師のある特性が見えてくるように思います。

一つは、どんな仕事もおろそかにすまいという誠実さです。

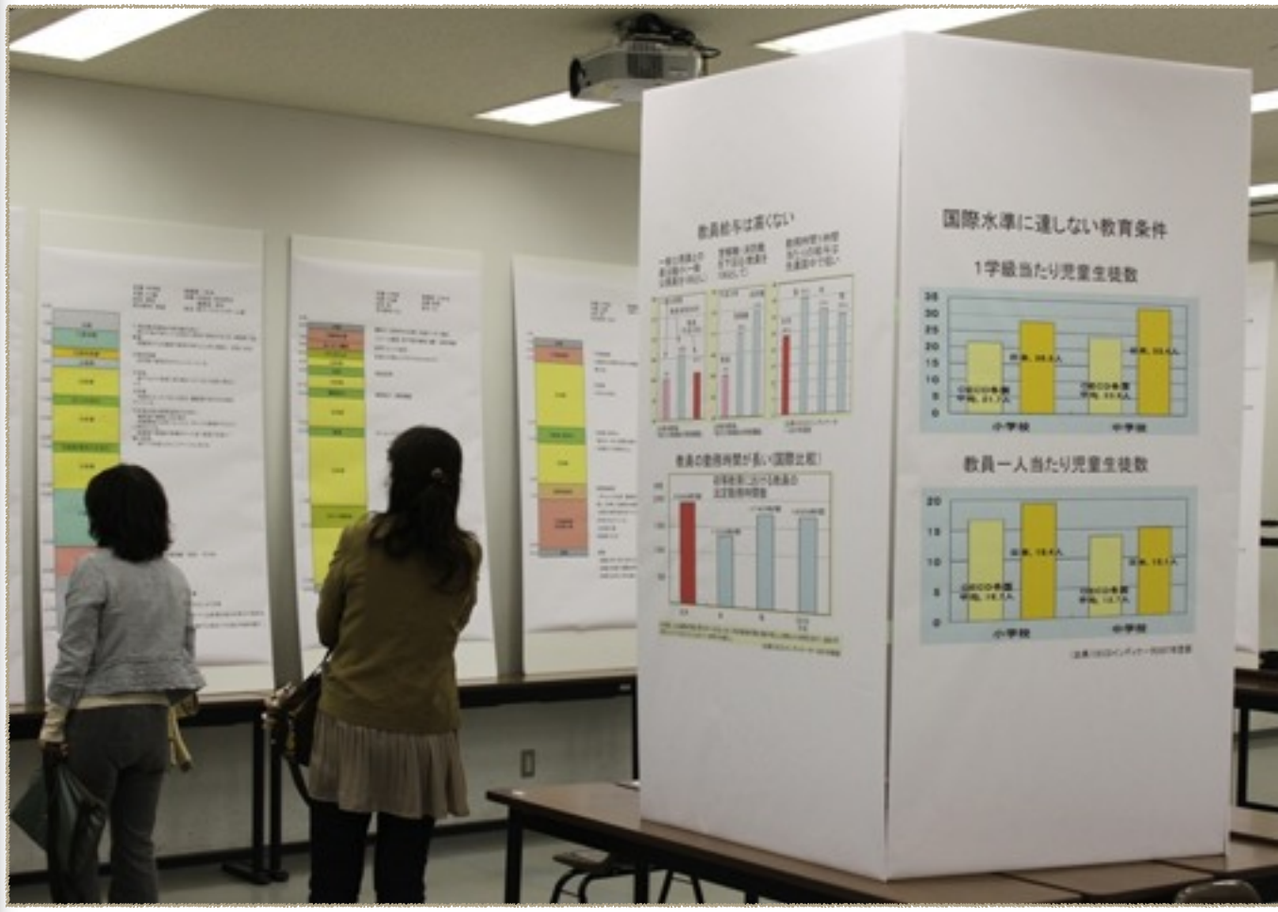
もう一つは、授業だけを本務と考えるのではなく、生徒と全人的に向き合おうとする姿勢です。この辺りは、学習指導を中心的なミッションとする欧米の教師と違う面ではなかろうか思わせられたことです。決して十分とはいえない条件や待遇の中で、日本の多くの教師が頑張っている、そういう実態をごらんいただけたら幸いです。

はじめに

教師の仕事は日々の学級経営の仕事だけでなく、様々な校務分掌や研修、保護者対応などに追われていることを大学院の授業の中で学び直しました。そこで教師の仕事の実態について、院生全員でこの機会に大きな視点から調べ直すことにしました。

研究を進めるにあたって、勤務時間については実際に働いている先生方にインタビューやアンケートを行いました。また、日本と世界の教師の仕事に対する捉え方や勤務時間、給料の違い等についてはインターネットを中心に資料を収集し、まとめたものを展示の形で発表しました。

そこで本報告書では、1章・教師の一日のスケジュール、2章・アメリカと日本の比較、3章・雑務についてのインタビューについてまとめました。



第１章

教師の一日

①中学校 男性 25歳

校種：中学校副担任　年齢：25歳　性別：男性

担当教科：社会科　　教職歴：１年目

役職：社会科主担、人権教育主担、給食主担

部活：サッカー部

特徴：朝と放課後の部活動に充てる時間が長い。

各研修等の報告書作成時間が多い。

授業のない時間でも雑務に追われている。

①学校事務
- 出勤後、本日の予定の確認。
- 職員室の掃除。
- 8時15分から学年ごとに朝の職員会議を行う。
- 水曜日は立哨として校門であいさつ活動を行う。
- 生徒指導

②清掃
- 清掃中は各フロアを見回り、様子を確認する。
- 水曜日は清掃なし。

③授業
- 1学年5クラスの社会科を担当。
- 授業のない時間は授業の確認や、書類作成等の事務活動　を行う。

④給食
- 副担任の先生は、各学年の教室で昼食をとりつつ給食指導を行う。この際、教室はローテーションで決められる。
- 給食前後の配膳の様子を見回り、指導を行う。

昼休み
- 書類、報告書の作成。
- 食後の休憩。
- 各フロアの様子の見回り。
- 授業の確認。

④校務分掌
- 書類、報告書の作成
- 各種研修に参加

⑤部活動
- サッカー部。
- 朝は7時半から、放課後は15時50分から行う。

第１章

教師の一日
②中学校 男性 23歳

校種：中学校副担任　年齢：23歳　性別：男性

担当教科：英語　　教職歴：1年目

役職：生徒会、安全担当、親睦会、会計

部活：男子バスケットボール部

特徴：担任は朝の会に出席するため、登校指導は副担任が中心となって行っている。

部活動では、生徒指導とともに保護者対応。

① 部活動(放課後の部活動も含む)
・帰りの会が終わった生徒から部活に参加するため、業務終了後準備。
・保護者からの要望等は上司に報告し、早急に対応。

②登校指導
・校門前で副担任を中心に行っている。

③清掃
・廊下などで清掃に取り掛かっていない生徒に声をかける。

④授業
・授業の入っていないときは、職員室で自分の仕事を行っている。

⑤生徒の休み時間(昼休みを含む)
・職員室で書類に目を通す。
・授業開始3分前になったら、チャイム着席をするように声をかける。
・配膳室で配膳の指導を行った後、教室で生徒と一緒に給食。
・廊下で生徒とコミュニケーションをとる。

⑥自由時間
・教材研究　・授業準備　・採点　・その他

副担任の仕事内容
〇学年集会など
・体育館の鍵管理
・集会で使用する機材の準備
・環境整備
・入ってきた生徒をしゃべらせないよう注意
・集会の後片付け
〇職員会議などの会議にはすべて出席(朝の会は出席せず登校指導)
〇合唱祭などの練習のときは廊下の見回りや生徒の写真を撮る

第１章

教師の一日

③小学校　男性 23歳

校種：小学校少数加配　年齢：23歳　性別：男性

担当教科：2・3年算数、3年書道　教職歴：1年目

役職：人権教育部主任、情報教育部、生徒指導部

部活：なし

特徴　少数過配のため、公務分掌が多く、学内の雑務は基本的に行っている。１年目にして人権教育部の主任を任されている。

①学級事務
- 印刷
- 雑務（掲示物を変える、壊れているところを直す等）

②授業
- 算数は2，3年生
- 書写は3年生

③給食・昼休み
歯磨きをしたり、児童と遊んだりしたりして過ごす。

④公務分掌
- ○人権教育部（主任）
  - 研究会に参加（出張）
- ○生徒指導部会
  - 学警連（学校と警察の連携）の参加
  - 学内の落とし物の管理
- ○情報教育部
  - 校内の設備管理
  - 校内の写真管理

第１章

教師の一日

④小学校 男性 55歳

校種：小学校　年齢：５５歳　性別：男性

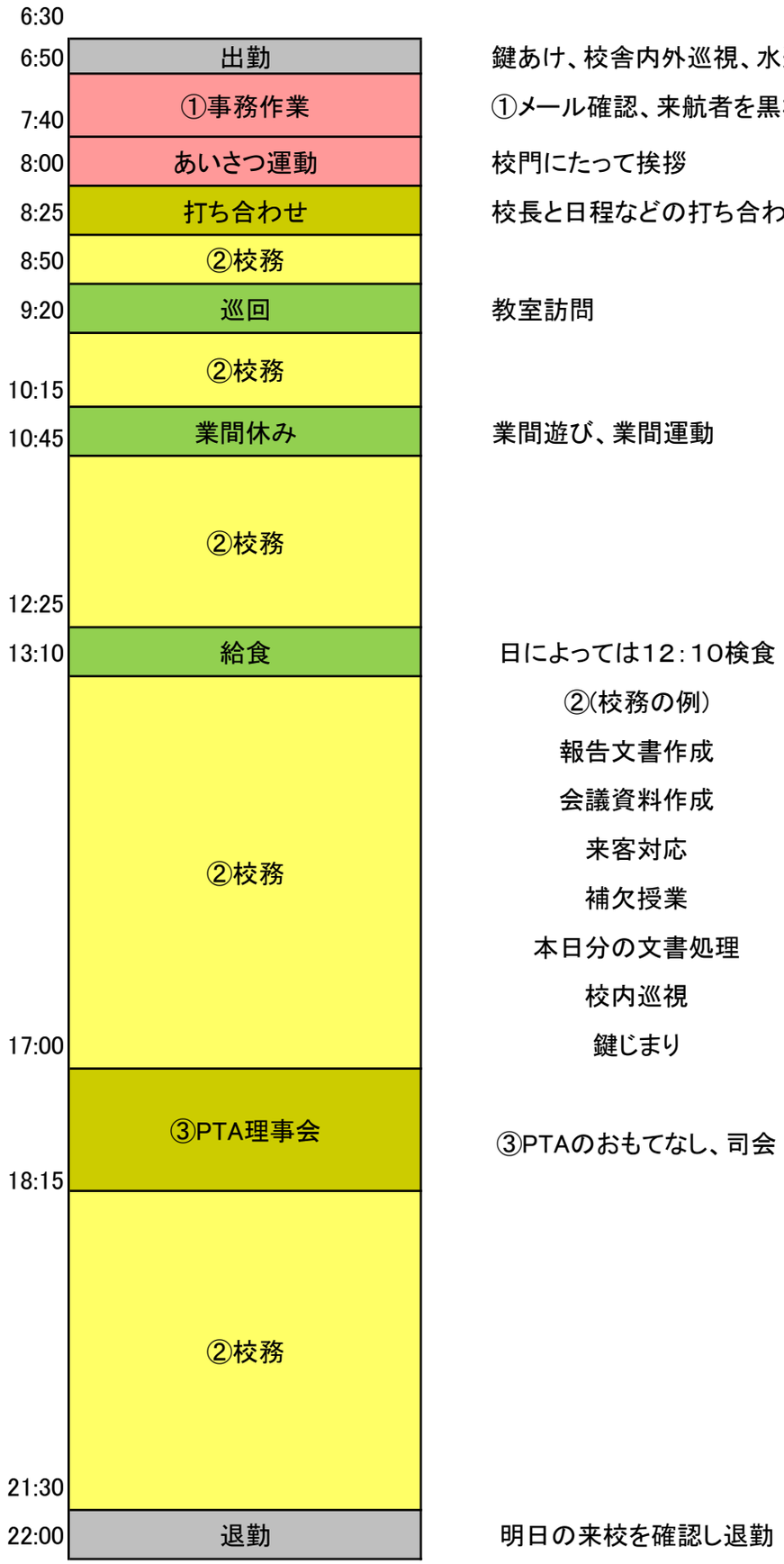
担当教科：なし　教職歴：３３年

役職：教頭

特徴：公務に勤務時間が大幅にさかれている

勤務時間が１０時間はゆうに超している

休日はあってないようなものである



〇休み…土日どちらかは出勤。長期休暇は三日

第１章

教師の一日
⑤小学校 男性 25歳

校種：小学校担任　年齢：25歳　性別：男性

担当教科：全科　教職歴：2年

役職：体育部主任

特徴：休み時間であっても、子どもたちと遊ぶなどで、休憩の時間はない。

担任の仕事に加えて校務分掌の時間が多い。

第１章

教師の一日

⑥小学校 女性

校種：小学校担任　年齢：２５歳　性別：女性

担当教科：全科　教員歴：３２年

役職：音楽主任

特徴：公務分掌が多くが学級意外にも仕事が多い

休み時間も校内安全に気を配る等、する事があり休憩できる時間はない

研究会など出張も多い

第１章

教師の一日
⑦高校 男性 32歳

校種：高校　年齢：32歳　性別：男性

担当教科：保健体育　教職歴：3年

役職：生徒指導部　部活：女子バレーボール部

特徴：休み時間でも教室等で生徒に対応しなければならない。放課後には校務分掌である生徒指導部の仕事や部活動がある。

第２章

日本の教師の勤務条件は、他国と比べてどのようなものであるかを探るべく、教師を巡る現在の勤務状況について、インターネット等を利用して調べました。アメリカと日本の比較や、他の公務員との比較を行うことで、日本の教師の現状の厳しさに改めて気づくことができました。

我が国の教育への予算配分は、アメリカと比べるとまだまだ足りないといえます。本研究で調べた教師の一日のスケジュールからも見受けられるように、教師一人一人が負う時間的および仕事の多様性による負担が大きいという問題もあります。さらに、給与面も国際水準までには達していないという状況下であり、教育条件を向上させていくことが今後求められます。詳しくは次章以下をご覧ください。

日本とアメリカの比較

第２章

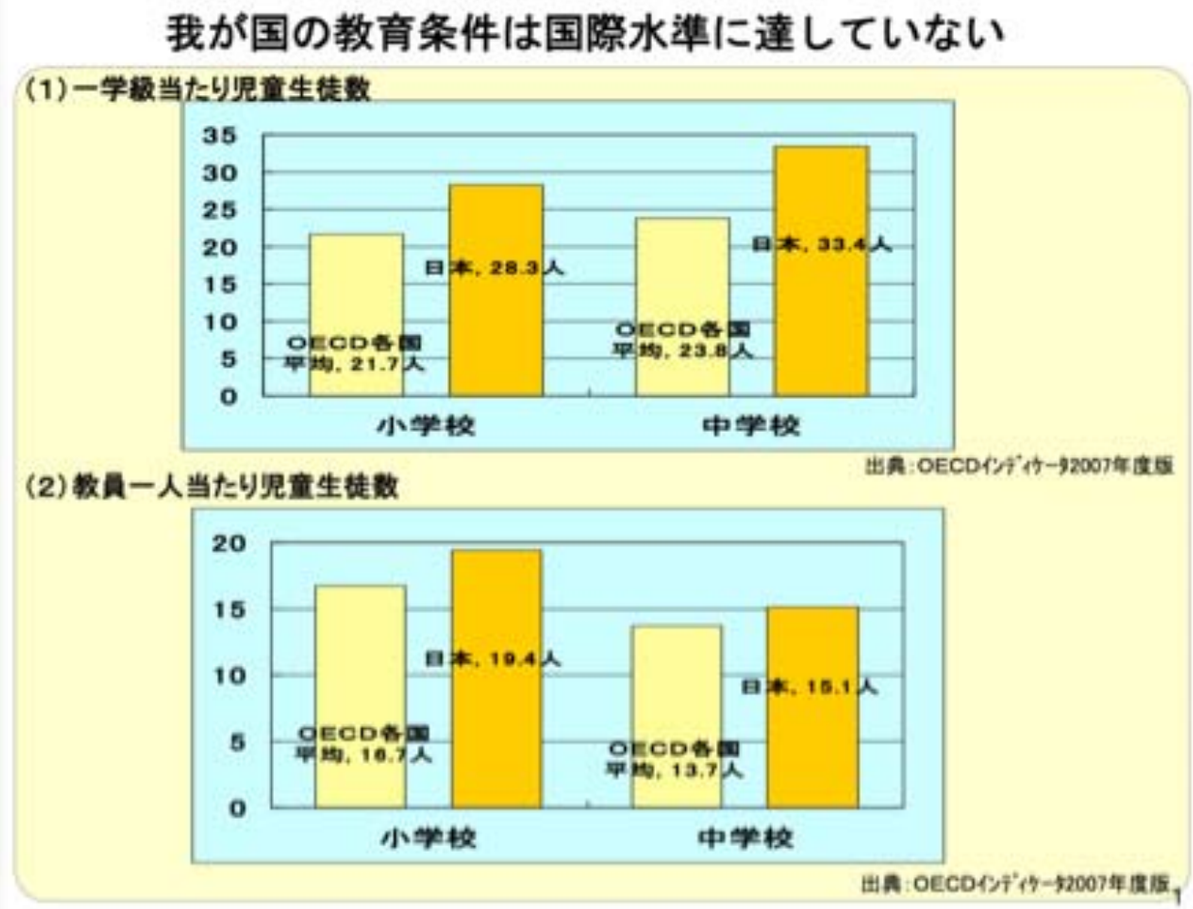
アメリカと日本の比較

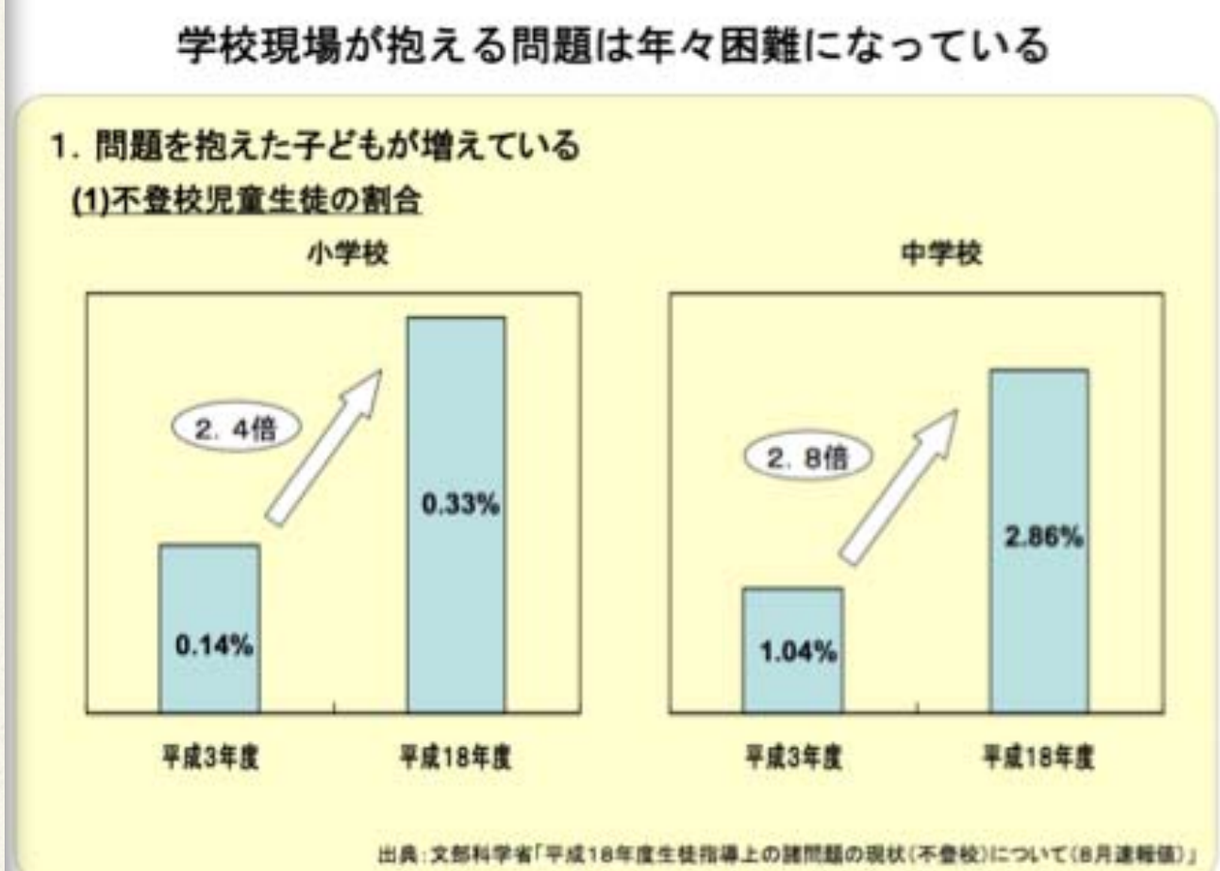
この章では、日本の教育環境についてアメリカの教育との比較を中心に示している。

資料は、中央教育審議会が打ち出し、初等中等教育分科会（第55回）にて用いられたものである。

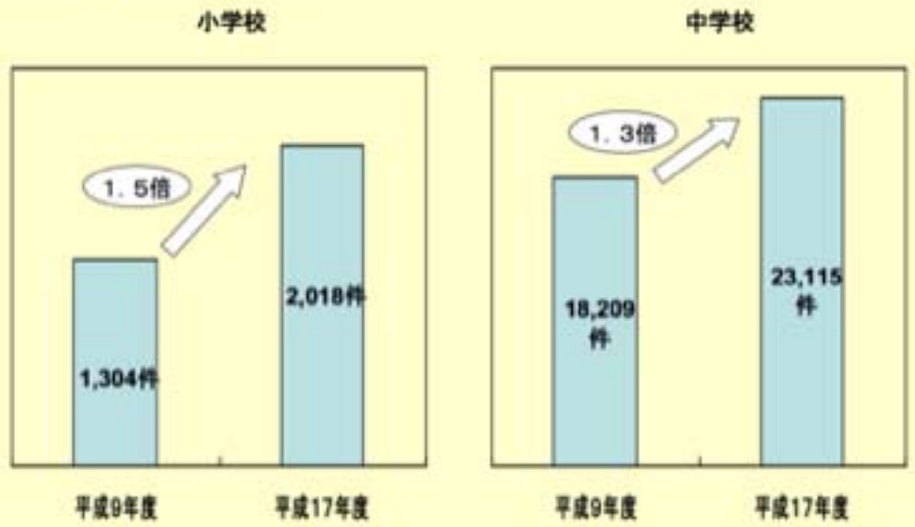
検討の結果、日本の教員は、アメリカと比較した場合、「勤務時間が長いこと」「授業以外の業務負担が多い」、という大きな問題点が二つ明らかになった。

また、日本の場合は学校現場が抱える問題（暴力行為、不登校児童生徒、児童虐待等）が増加傾向にあるという独自の課題も抱えている。





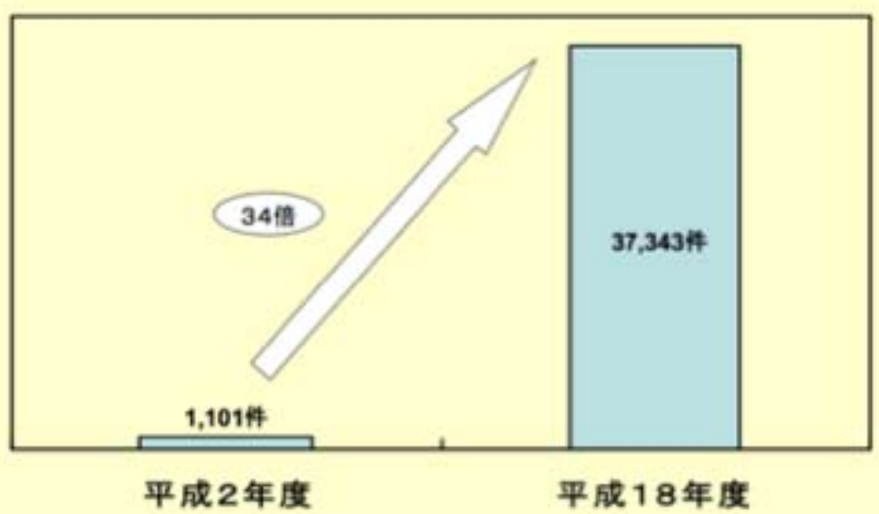
(2)学校内での暴力行為の件数



出典：文部科学省「生徒指導上の諸問題の現状について」

3

(3)児童虐待の相談処理件数

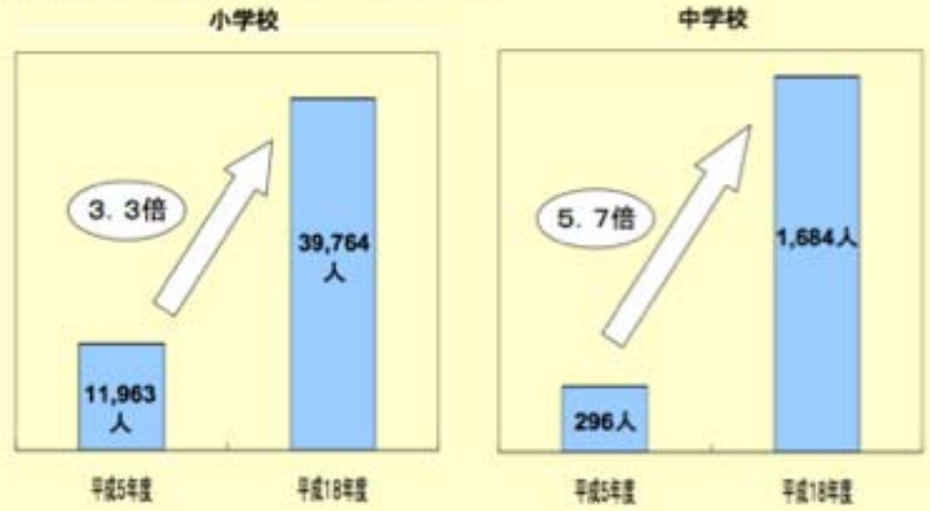


出典：厚生労働省「児童相談所における児童虐待相談対応件数等」

4

2．特別なケアが必要な子どもが増えている

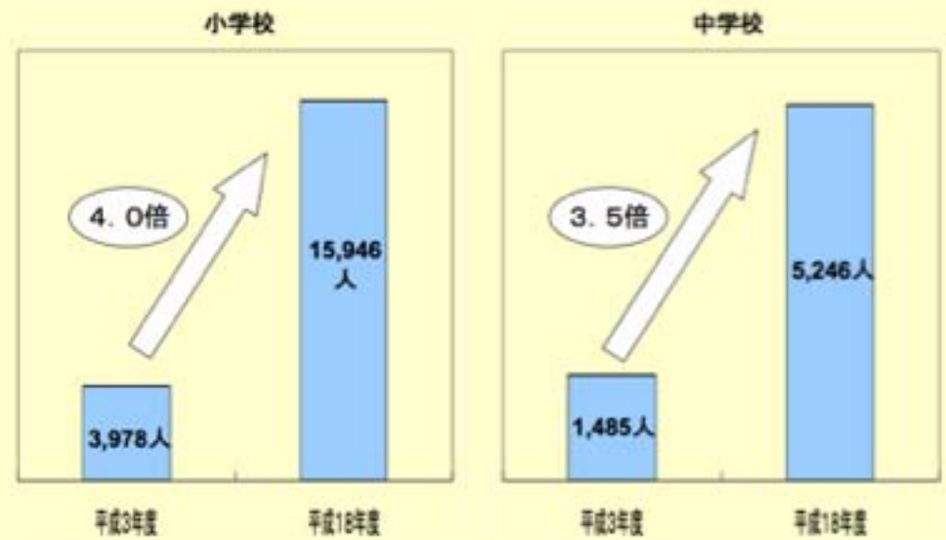
(1)通級による指導を受けている児童生徒数



出典：文部科学省初等中等教育局特別支援教育課「特別支援教育資料」

5

(2)日本語指導が必要な外国人児童生徒数

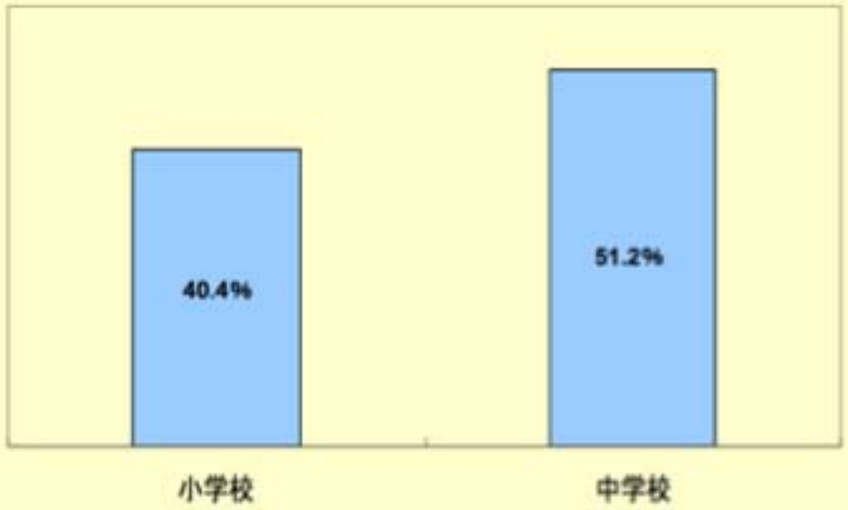


出典：文部科学省「日本語指導が必要な外国人児童生徒の受入れ状況等に関する調査」

6

3. 対応が困難な保護者が増えている

学校給食費を払わない保護者がいる学校の割合（平成18年度調査）



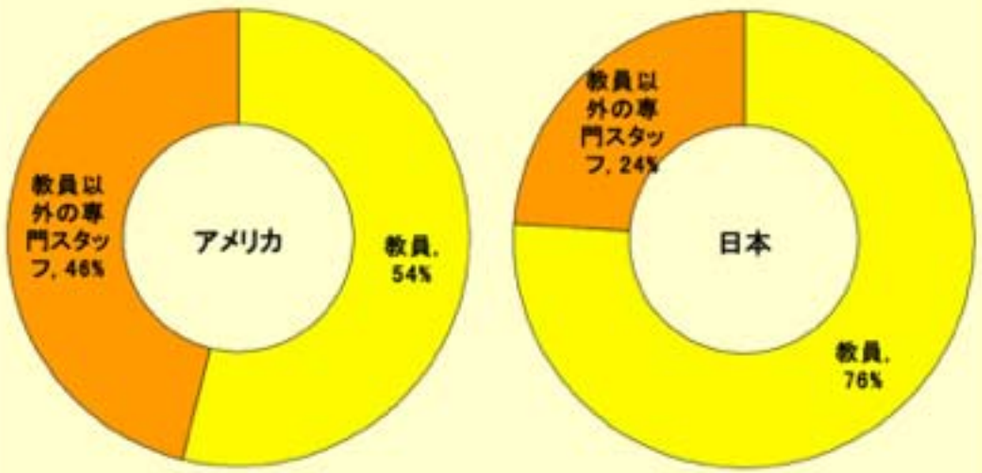
出典：文部科学省「学校給食費の徴収状況に関する調査」

7

教員はますます多忙になっている

1. 我が国の教員は授業以外の業務負担が多い

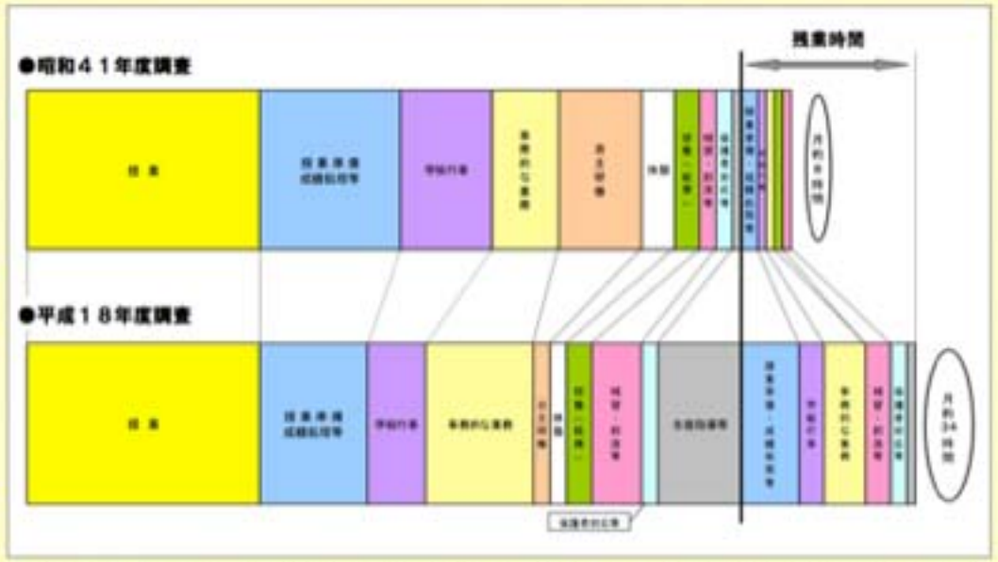
(1)教職員総数に占める教員以外の専門スタッフの割合



出典：平成18年度学校基本調査、諸外国の教員（平成18年3月）文部科学省

8

(2)教員勤務実態調査（昭和41年度調査と平成18年度調査の比較）



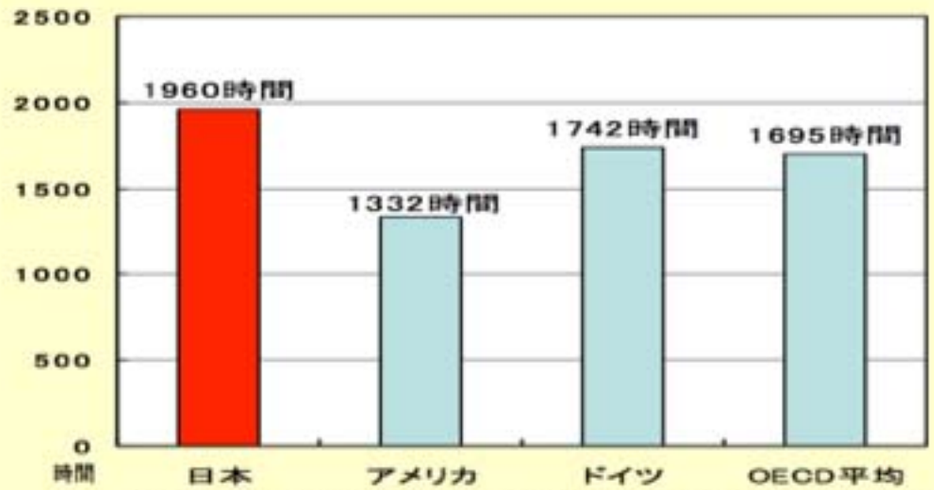
・昭和41年度と比べ、「事務的な業務」、「生徒指導等」、「補習・部活動等」の業務が増えている。

出典：文部科学省「教員勤務実態調査」

9

2. 我が国の教員は勤務時間が長い

初等教育における教員の法定勤務時間数



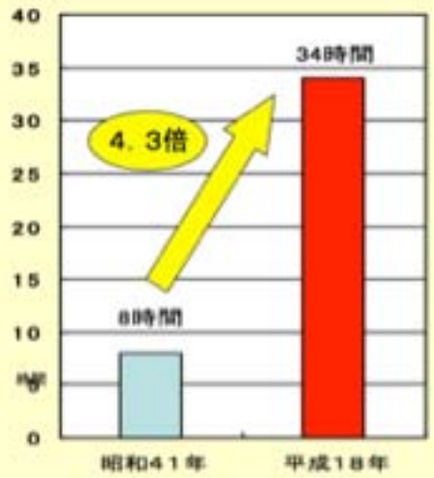
※米国は、法定勤務時間数に関するデータがないため、学校内勤務時間数（授業時間および授業以外の時間も含めて、教員が学校内にいなければならないとされている時間）を記載した。

(出典)OECDインディケーター2007年度版

10

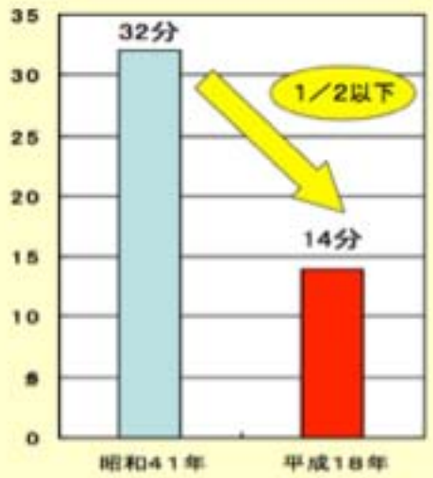
3. 残業時間が大幅に増えている

年間ベースの1ヶ月あたり残業時間



4. 休憩時間がほとんどとれなくなっている

年間ベースの1日あたり休憩時間

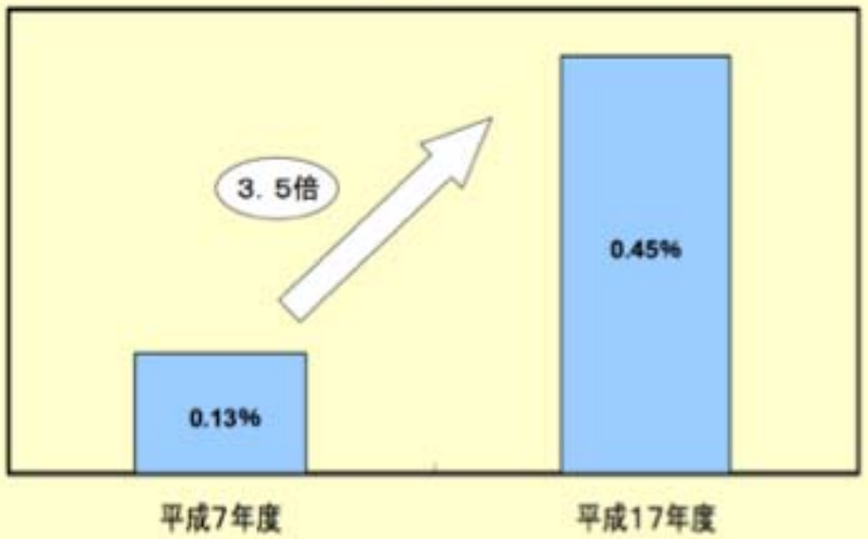


(出典)文部科学省「教員勤務実態調査」

11

5. 教員の精神性疾患が急増している

教職員数に占める精神性疾患の割合

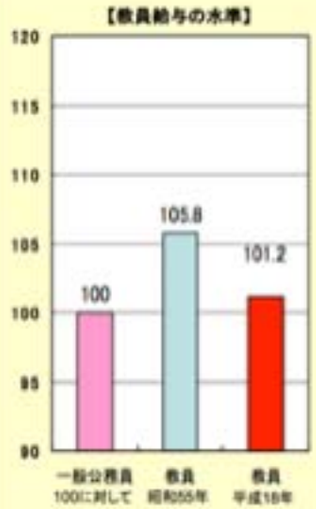


(出典)文部科学省「教育職員に係る懲戒処分等に関する調査」

12

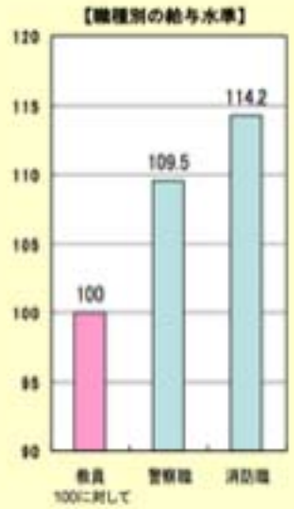
教員の給与は高くない

1. 一般公務員との差が 縮まってきている



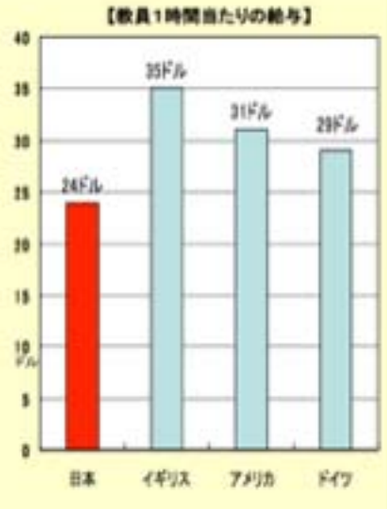
(出典)総務省「地方公務員給与実態調査」

2. 警察職・消防職を大きく下回っている



(出典)総務省「平成18年地方公務員給与実態調査」

3. 勤務時間1時間当たりの給与は他の先進国より低い



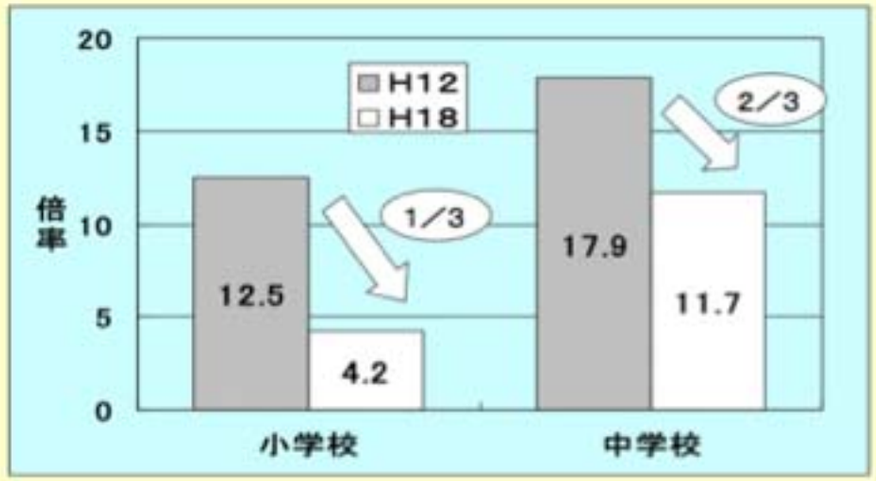
(出典)OECDインディケータ(2007年度版)

13

教員の人材確保が難しくなってきている

1. 教員採用試験の倍率が下がってきている

平成18年度公立学校教員採用選考試験の実施状況(採用倍率)

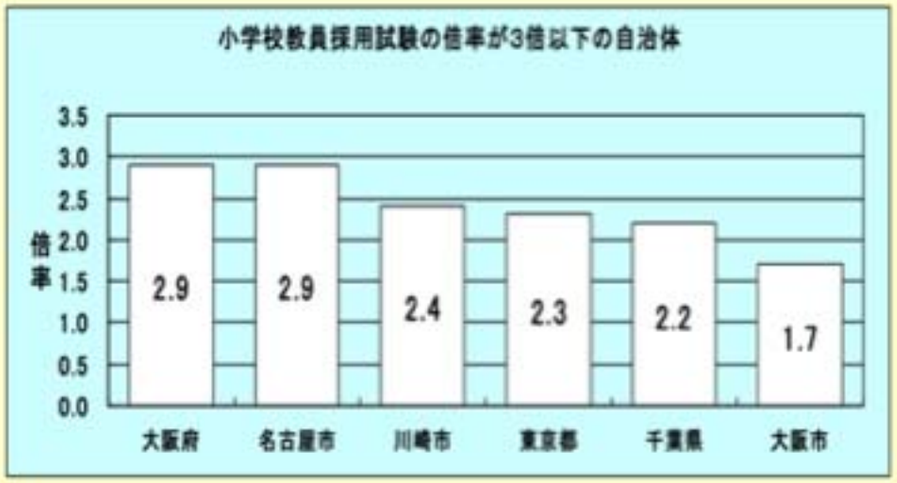


出典：文部科学省「公立学校教員採用選考試験の実施状況について

14

2. 特に都市部の小学校教員の確保が危機的状況になりつつある

平成18年度公立学校教員採用選考試験の実施状況（小学校競争率）



注1）名古屋市は併願者を除いた倍率（併願者を含めると3.2倍）
注2）大阪市は一次免除者を除いた倍率（一次免除者を含めると2.0倍）

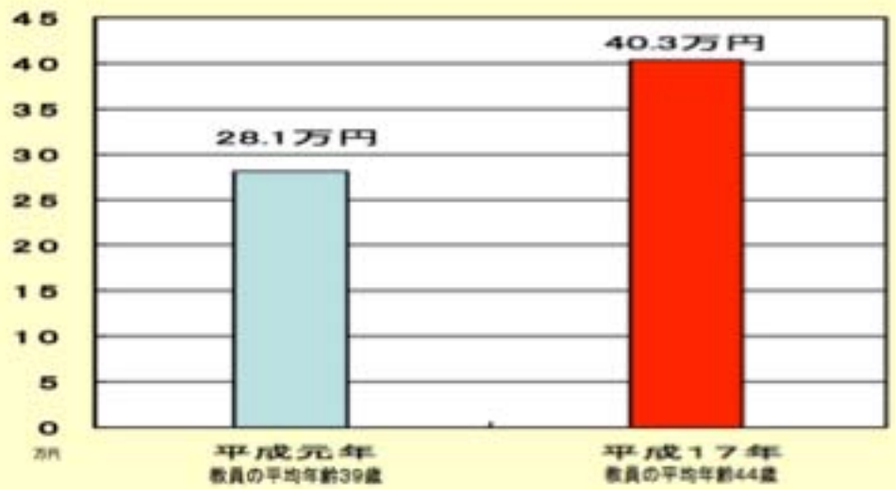
出典：文部科学省「公立学校教員採用選考試験の実施状況について

15

児童生徒１人当たりのコストが高くなっている

1. 教員の平均年齢が上がるとコストが高くなる

教員の平均給与月額比較（平均年齢における比較）



（出典）総務省「地方公務員給与実態調査」

16

2. 学校規模が小規模になるとコストが高くなる

児童生徒にかかるコスト（学校規模における比較）（公立小・中学校）

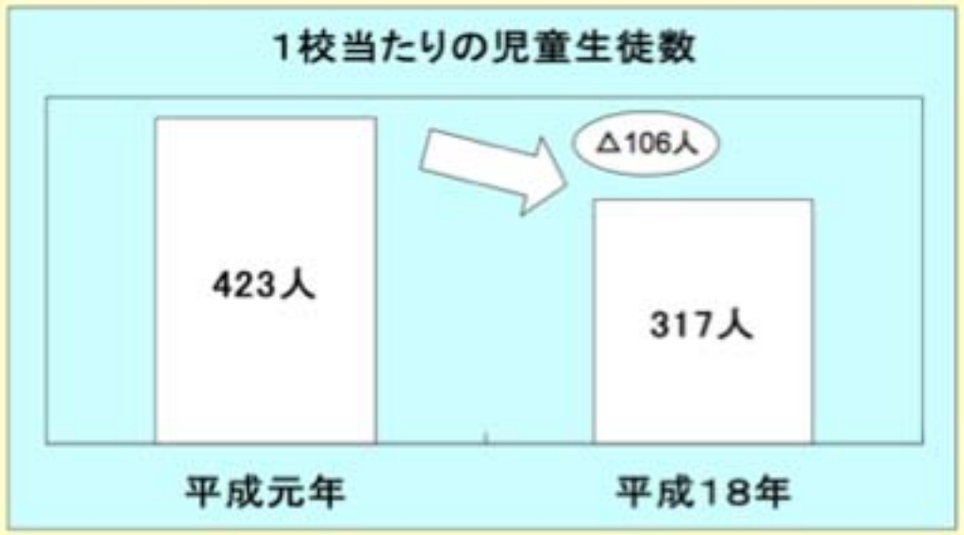
	埼玉県（学校規模最大）	高知県（学校規模最小）
児童生徒40人当たり本務教員数	2．08人	3．88人
児童生徒1人当たり学校教育費	74万円	118万円

出典：平成18年度学校基本調査、平成18年度地方教育費調査（H17会計年度）

17

3. 学校規模が縮小してきている

1校当たりの児童生徒数（公立小・中学校）



出典：学校基本調査

18

第３章

インタビュー調査①

実施日：２０１２年9月２９日（土）

校種：埼玉県　小学校教諭

年齢：２０代女性

教員歴：２年

公務分掌：２年生担任

（以下　I：質問者　A：A 教諭）

I：これがなければもっと授業研究やクラスのことができるのにというものはありますか。

A：目的がわかりにくい研修、書類…などいろいろありますね。あと進まない職員会議など。

I：例えばどんなことがありますか。

A：例えば、欠席した子どもに対しての連絡です。もちろん子どもの様子は心配ですが、毎日必ず電話連絡をしなければいけないので人数が多いときは少し大変ですね。

I：なかなか電話がつながらないご家庭もありますよね。

A：そうなんです。だんだんサービス業のようになってきているのかなと感じます。

I：ほかにはありますか。

A：出勤は 8 時 20 分までとなっているのですが、私の学年では児童が登校する前に教室に入ります。児童の登校は 7 時 50 分以降となっているのですが、実際には 7 時 30 分に来る児童がいるので、それよりも前に教室に入らなければいけませんね。

I：それは大変ですね。子どもたちと過ごしたい気持ちもありますが、仕事をやる時間も確保しなければどんどん放課後にやることが増えてしまいますよね。

A：仕事は楽しいのですが、自分に余裕がありません。ご飯を買って帰るか、外で食べて帰って寝るという生活なので。

I：確かに教師が自分の生活にゆとりがあるというのは大切なのかもしれませんね。アメリカなどの先生方は、仕事が終わったらすぐ帰宅して習い事に通ったり、という姿もみられましたよね。ご意見どうもありがとうございました。

第３章

インタビュー調査②

実施日：２０１２年9月３０日（日）

校種：埼玉県　小学校教諭

年齢：５０代女性

教員歴：３７年（中学校経験あり）

公務分掌：音楽専科、吹奏楽部顧問

（以下　I：質問者　B：B教諭）

I：教師の仕事でこれがなければもっと授業研究などができるのにな、と思うものはありますか。

B：う～ん、突然だと難しいな。書類や研修は大変ですが必要なものだし。他の先生がどのように考えているのか知ることができたりするよい機会ですから。強いて言えば、常識をはずれた親の対応や不必要な生徒指導かな。

I：具体的には。

B：今は親になりきれていない保護者の対応もしなければいけないということです。例えば、私の学校に毎日保護者から学校に電話がかかってくる担任の先生がいるのですが。その内容が（自分の）子どもが騒いでいたら〇〇さん（クラスの他の児童）に注意されたということだったりするんだよね。普通なら、自分の子どもが騒いでいて他の子どもに注意されたのなら、自分の子どもを叱るべきですが、子どもの言い分をそのまま苦情として伝えてくる保護者の方もいらっしゃるのです。

　あと不必要な生徒指導というのは、子どもの好き嫌いやしつけに関しても教師が指導しなければならないということです。

I：やはりそういう思いを感じることは小学校の方が多いのですか。

B：そうですね。中学校だとこういうことは少ないです。ただ、要録などは結構大変。PCでできるようになったから大分楽になったけど。もう少し簡素化してもいいのかなと思ったりはしますね。

I：なるほど。貴重なご意見をありがとうございました。

※（　）は作成者の補足

第４章

アンケート調査

調査対象：教員19名（内　掲載15名）

小学校から高校までの教員

調査方法：メールによる調査（自由回答）

質問内容：日々の仕事の中で「この仕事がなければもっと教材研究や児童・生徒のための時間が時間が取れるのに」と思うものはありますか。

調査結果

1．小学校

①　～④20 代前半の教員、⑤～⑥20 代後半の教員、⑦～⑧60 代の元教員

①都道府県：埼玉　性別：男　教員歴：1 年　担当：4 年生担任　校務分掌：体育部、安全部

初任研で毎週ある公開授業、研究授業の指導案…毎週、指導案を作成すると、それだけでかなりの時間が費やされる。

②都道府県：埼玉　性別：女　教員歴：2 年　担当：4 年生担任　校務分掌：理科主任

・学級会計…出納帳をつけること、保護者への資料配布
・学級経営案…年間計画、一年間の教育活動目標、特別支援の必要な児童への対応案
　学期末ごとの教育活動目標についての反省
・時数計算…教科ごとに授業時数が足りているか計算する

③都道府県：埼玉　性別：女　教員歴：2 年　担当：3 年生担任　校務分掌：総合主任

とにかく忙しいというのは間違いなく事実。しかし、丸つけも宿題チェックも教室整備も…あげると事務仕事もキリがないが、どれをとっても全て子どもに関わること。極端な話、教員同士の何気ない会話も。子どもに関わること以外の仕事はないと思う。そう考えると、子どものことで自分にできることは何をとっても本務なのではないか。

④都道府県：群馬　性別：女　教員歴：2 年　担当：5 年生担任
校務分掌：児童会、算数主任、総合主任

会計管理や授業時数集計等の事務的なものがある。大切な仕事だが、要領よくこなす必要がある。

また、学業以前に人として教えなければならないことが多く、生徒指導の方に時間がかかっている現状もある。家庭での教育が十分にされていないように感じる。

個人的には、校務分掌が多い。担当しているマーチング（授業）の仕事は、決められた時間内で仕上げることがほぼ不可能で、勤務時間以外で大変時間をとった。毎日実質 7 時半～9 時くらいまで仕事をしないと間に合わない時期もある。

⑤都道府県：茨城　性別：男　教員歴：4年

業務削減には校務分掌や会議を減らさないと無理ではないかな。どれも必要だからあるのだろうけど、毎日のように放課後に会議があったら自分の仕事は6時以降、そうすると正規の退勤時間は過ぎてしまいます。特にうちの学校は部活動があるから会議がなくても放課後は部活の指導があるので。児童と楽しく過ごすためにも心と時間に余裕を持って仕事したいです。

⑥都道府県：埼玉　性別：女　教員歴：5年　担当：3・4年生算数
校務分掌：図工・算数副主任

・週報（保護者向けに、時間割、単元、持ち物を明記して出すもの）…特に行事の際には、持ち物等について学校だより、学年だより、連絡帳にも同じことを書く。書く場所が多い分、全てに同じ内容を書くよう注意を払わないと、保護者の混乱に繋がる。
・行事が多い…PTAバザーや、町の方々と交流するために土日出勤など。
・集金…集金も仕事として受けとめているが、あまりにも長い期間の滞納や、こちらからの家庭訪問を拒否するような家庭は、行政にも力を借りるべき。
・その場しかやらない授業研究…その時はすばらしいが、次に繋がらない。授業研究のための研修も、計画的でなく突然決まる。
・長い職員会議…17時まで会議をし、それから自分の仕事を行う。
・授業時数が増えているのに、週5日制はそのまま…時数に追われている。

⑦都道府県：埼玉　性別：男　教員歴：32年　担当：教務主任、学年主任の経験あり
校務分掌：初任研図工・社会　等

前日あるいはその前から、当日やることの手順を考えて学校に出勤しているが、当日の朝、〇〇委員会や××部会等の分担等が入ることがある。これが、一日の流れに支障をきたし、場合によっては予定の削除をしなければならなくなる。

（例）生徒指導のアンケート…急に来ることが多い、地域からの連絡…生徒指導を行う、急な出張、担任の先生の病欠等による補教等

また、共通理解が図られていない学校、学年は、雑務が多くなる。

（例）上記のような補教、各行事に伴う仕事、委員会・部会等の内容が全教職員に届かない等

本人が、率先して行えるもの、他に依頼されてもすぐできるものは雑務ではなく、必要性を感じなかったり苦痛を感じたりするものは、雑務だと思われる。

⑧都道府県：埼玉　性別：女　教員歴：37年　担当：学年主任の経験あり
校務分掌：書写主任　等

これをしなくてよかったら、この仕事にもっと時間が使えるのに…と思うことがあっても、採点にしても清掃指導にしても家庭訪問にしても、どれを取っても皆児童理解のためにさらに児童の学習指導の向上のためにどこかで役立つので必要であると捉えてきた。教員としての本務について改めて考えると、「児童のために」し、下記のようなことを工夫することが大切だと思う。

ⅰ）学習内容と授業時間数の調整、生活時間帯の有効な設定。
ⅱ）会議の回数や時間帯を精選して放課後の使い方を工夫する。
ⅲ）学年で共通した問題プリントの作成、印刷等の分担をし、学年間の共通理解を図る。

特に週5日制になってからは、土曜日に授業がない分休み時間が5分間になったり平日の5、6時間目が増えたりした。結果、授業時間以外で児童の学習を見る時間の確保が難しくなった。

2．中学校

①～③20代前半の教員、④～⑤20代後半の教員

①都道府県：東京　性別：男　教員歴：2年

理科室の掃除です。授業の空きもなくて放課後も毎日部活があるから6時過ぎからいつも掃除をしています。PTAの活動も多いですね。コーラス、祭礼のパトロール、夜間講演会などがあります。生徒会担当だから週何回か放課後に活動や土日に地域清掃のボランティアをしています。

他には総合の進路学習のプレゼンの指導、生徒指導のための臨時の保護者会ですね。勤務時間外に仕事をすることが多くて教材研究の時間はあまり取れないのが現状です。でも、ほとんどの仕事は義務ではないけどやらなきゃいけないことです。問題は、学年の仕事が残っているのに定時になるとすぐに帰る人とか、平日に平気で休む人とかがいることだと思います。そういう人が協力して仕事をしてくれればもう少しよくなるといつも思っています。

②都道府県：埼玉　性別：男　教員歴：2年　担当：2年生　国語
校務分掌：バレー部　生徒会

雑務…行事ごとの資料作りや、企画とかが教師の仕事ではなく、それ専門の人がいるとかなり楽になると思う。（当然、生徒の実態を伝えるために話し合いはするが）

③都道府県：茨城　性別：女　教員歴：2 年　担当：1 年生担任　国語
校務分掌：女子バスケットボール部　生徒会、生徒会会計

とりあえず、部活は忙しい！平日は季節によるが、夏は子どもが 19 時下校で、毎日朝練もあって、土日は全部潰れてしまう。形だけの研修や書類作成、教員組合の会合、校内の破損物の修理も慣れてないから大変。学校の HP の更新や、生徒会の会計処理とかも。なんだか、毎日雑務に追われて…と思っているが、よく考えたらただ仕事が遅いだけかもしれない。優先順位の問題で、日常の中で、こんなことしている時間があったら家庭訪問したいとか、教材研究したいとか、そっちの方がよっぽど子どものためになると感じる仕事はたくさんある。こういう仕事は、行政とか教育委員会でやってくれたらと思ったり、家庭でやることではないのかと思ったりすることもたくさんある。

④都道府県：埼玉県　性別：女　教員歴：3 年　担当：2 年生担任　国語
校務分掌：女子バスケットボール部　特活主任、書写主任

運動部は土日もないし、学校に住んで、職員と生徒と、家族や親しい人の何倍も一緒にいるって感じが現状。だから、プライベートを考えたら、せめて印刷とか掃除とか PTA 関係とか部活とか誰かやってって思ってしまう瞬間はあるが、結局そういうのも含めて信頼関係や私自身の力の向上につながるから、大変だけど無駄なことは一切ない。むしろそれを今どこかに委託したり削除したりしたら罪悪感と喪失感が残りそう。

本業もいろいろあるのではないか。同じ人でも時を隔てて本業も変わるだろうし。適材適所協力して生徒を色んな角度から学校としてみていけたらいいなと思う。

始めは授業第一だと思っていて、確かに間違いではないが、今特別活動やらせてもらったり教育相談やったり他にもたくさん責任持たせてもらえるようになって、授業準備に頑なになりすぎても、いい授業や生徒、学校は生まれないと感じている。一見生徒に関係なさそうでも、どっかで繋がるって感じられる仕事をさせてもらっている。

⑤都道府県：埼玉　性別：男　教員歴：3 年　担当：2 年生担任　英語
校務分掌：吹奏楽部、英語科教科主任、生徒会、部活動

勤務している学校の場合、多忙の原因は部活と校内研修（指導案提出や職員研修）と、PTA との会合、PTA 行事、広報などが挙げられる。また、7 時 40 分から朝練して、放課後は 18 時まで部活をしている以上どんなに雑務を減らしても本務には専念できない。仕事を減らすことよりも、仕事を手際よくこなすことに専念している。

ただ誤解してもらいたくないのが、教員は授業とか子どもと接することだけが本務とは限らないということ。子どものためになることは全て本務だから。（たとえば英検の申し込みをしたり、PTA と会合をしたり…会合は、親と子どもについて話す良い機会。）だからいっぱいある本務の優先順位を教員が見極めて、いかに効率よく仕事できるかだと思う。

3．高等学校

①都道府県：長野（公立）性別：男　年齢：20 代後半　教員歴：3 年　担当：理科

組合活動，職員会議の連絡事項，労働交渉，アンケート調査，平和学習，相対評価よりの処理，予定外の補習，慰労会，印刷業務，教職員組合，教務など，進路指導や教務や委員会など，年中行事，進路指導や教務，教科指導，委員会色々と意見を挙げてみましたが，一番は「会議」です。教員って「突然予定外の会議」って多いです。常識ある社会人として，もっと事前確認や根回しをしてほしいです。

②都道府県：東京（私立）　性別：男　年齢：60 代後半　教員歴：35 年　担当：物理
校務分掌：科学技術部　進路指導副主任、コンピュータ

教員になり担任を持つと生徒の生活、成績に関する相談、事務処理および学校行事に追われる毎日だった。本校は行事が多く、私は勤め始めた時から行事に関しての仕事やコンピュータ関係の仕事を 20 年以上担当したが、それらに時間は相当とられた。事務には、担任の事務と校務分掌の事務とがあるが、特に校務分掌の事務仕事は、自分の担当以外の仕事は見て見ぬふりが多い。また、その係に人数がいても、主任だけが仕事をしているといったこともある。会議は基本的に週に一度だが、2～3 時間と長く、ときには 5～6 時間ということもあった。必要なこともあるが、無駄な時間を過ごした感もある。最近では、週に一度の職員会議の後に、学科会議や学年会議が交互に入るようになった。

以上の結果としては 1 日の中で自分の担当教科の教材研究に使う時間は私の場合はほとんどなかった。勤務を始めた時は、予習や教材研究は夜中だった。ただ、公立とは違って強制的な研修会、指導主事のための研究授業がなかったことは良かった。人は安きに流れやすいので教科の教材研究の時間がとれるようになったからと言って、その時間を本当に有効に使うことができるどうかは本人次第となると考える。忙しくて時間がないときにやっとやりくりしたときの方が成果がある場合もあることを忘れてはならない。

アンケート調査のまとめ

毎日の仕事の中で、どこまでを児童・生徒のための時間（仕事）であるとするかが難しいという意見が多かった。どの仕事をとっても、全て児童・生徒に関わっているからである。そのような中で、時間をとられる仕事として挙げられたのは、以下のような内容である。

会議、研修、部活動、行事、会計、アンケート集計、印刷、PTA との活動、教員組合活動、校務分掌、成績処理、補習授業、校内整備、週報　　（19 名分のアンケートより抽出）

第５章

取り組みを終えて

１.伊藤　悠太

２.岩下　紗矢香

３.嶋田　千恵

４.廣川　遥

５.深川　貴史

「アンケート結果をふまえた感想」

伊藤悠太

今回大学院にて多忙な教師についての調査を行い、その調査について、来場者から多くのアンケート結果をいただくことができた。お忙しい中会場まで足をお運びくださり、多くの指摘をいただけたことは大変ありがたいことである。また、この取り組みが有意義なものとなったのではないかとも思う。

多くの方々が教師の職務の抱える問題や改善点をあげてくださっている。教師の多忙さの問題提起として成功したと言えるだろう。そのなかで、教師への期待の声も上がっていたことはとても印象的であった。現在の教育では地域社会との関わりが必要不可欠とされている。その上で地域に住む人たちからこのような意見をいただけたということは、教師を目指すものとして励みになるとともに、その職への責任感をより一層感じさせるものである。忙しい、大変だといって終わりにしてしまうのではなく、それを乗り越える誇りややりがいを見つけ、こうした期待の声に答えていくことが、教師を目指すものとして大切なことだと考える。

「アメリカと日本との比較を通しての感想」

岩下紗矢香

「多忙な教師」というテーマのもと、アメリカと日本を比較し、日本が抱える教育の問題を調べた。

中央審議会が作成したデータから、他国と比較した場合、日本の教員が行っている業務の多さ、日本の現場が抱える問題が増加しているという現状を知ることができた。「多忙な教師」と感じられる原因として、アメリカと比較した場合日本では教員以外の専門スタッフの割合が少ないこと、教員の人材確保が難しくなっていることが考えられる。これらのことから、教員一人当たりの業務が増えることにより勤務時間の長い「多忙な教師」が多くなってきているのではないか。

今回「多忙な教師」の調査に協力していただいた教員の方々のインタビューからも、一人一人が多くの業務をこなしており、多忙であるという印象を強く受けた。しかし、アンケートやインタビューから多忙な状況の中でも児童生徒と向き合うという姿をみることができた。そのような教師としての姿を目標とし、将来現場に立ちたいと強く思う。

「教師の一日のスケジュールについての感想」

嶋田千恵

教師の一日のスケジュールを見ると、校種は異なるものの、共通して勤務時間の長さと勤務内容の多さが伺えた。まず、勤務時間では出勤は大方６：３０～７：００の間であり、退勤は１９：００～２０：００が多い。勤務時間は軽く１０時間を超しており、それでも仕事が終わらず休日を仕事にあてているという現状がある。

教師の勤務内容をみると、授業はもちろんのことながら教材研究、クラブ活動や部活指導、職員会議や研修会、保護者対応等、多様にわたっている。しかし、どれも学校として組織し教育目標を実現することや、安心して保護者、地域の方に信頼安心される学級や学校を築いていくためには欠かすことのできない大切な仕事である。

決して楽な仕事ではないが、それでもインタビューした教師からの「子どもの成長を日々感じられ、伸ばすことができるとても楽しくやりがいのある仕事である。」というコメントが印象的であった。

「インタビュー調査を通しての感想」

廣川　遥

無駄だと思う業務について、20代と50代の２人の教師対しにインタビュー調査を行った。調査の結果を受けて、業務のサポートをする人員が必要だと思った。

１つ目は両者ともに親の対応の大変さについて触れていることから、時間的な多忙さのみならず精神的な多忙さもあると思われたからである。20代教師のインタビューにある「サービス業」という言葉は、展示のアンケートにおいても見られた言葉であり、教師の現状を捉えた言葉だと思われる。親の仕事であるはずのことが教師の仕事となるで、多忙さと多忙感を生んでいる。

２つ目は２人の研修や書類に対する考え方が異なることから、若手教師は授業に対する経験が少ないため、授業の準備に手一杯で研修や書類にまで手が回らないからだと思ったからである。

教師の本分である授業をより良くしていくためにも、時間的にも精神的にもゆとりのある環境にする必要だと思った。

「教師の勤務状況や休憩時間についての感想」

深川貴史

　教師の仕事が多忙であり、休憩できる時間があまりないということは以前から知ってはいたものの、今回の研究によってその勤務の厳しさについて改めて知ることができた。私は、高校教師をされている方と小学校教師をされている方に、一日のスケジュールや休日に勤務されているかなどについてインタビューを行った。教師は一日を通して、休む暇なく働いている状況である。子どもたちとともに学校生活を送る以上、安全等にも十分注意が必要であるため、休憩の時間というのはあまりとることができないのが現状である。

　校種によって異なる面はあるものの、校務分掌や事務作業等、一人の教師が背負う負担は大きいといえる。一人一人の教師の負担を、もっと軽くすることができればさらに教育活動が充実したものとなると考える。

　藍蓼祭でのパネル展示に訪れてくださった方々の声からも、教師の数が不足しているということが課題であると感じた。

謝辞

まず本研究に際して、最初に取り組みへのきっかけと内容面での全面的な指導をいただきました大学院研究科長の平沢茂先生にお礼申し上げます。この取り組みによって、初めて院生全員が研究という視点でひとつになれた気がします。その成果として藍蓼祭における展示部門「優秀賞」受賞は望外の喜びです。

藍蓼祭での展示会場に来場して下さった方々。アンケートのご協力いただいた先生方。 今回の共同研究にご協力いただいた皆様、すべてに心より感謝申し上げます。 私たちはこのような多忙な現状にある中でも、こうして親身に協力いただける先生方の人柄に励まされ、先生という仕事のやりがいや魅力を改めて再発見することができました。ありがとうございました。

2012年藍蓼祭展示部門優秀賞受賞

iBooksAuthor作成者